

大学等名	札幌学院大学
プログラム名	データサイエンス・AI教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

教養科目「データサイエンス概論」(2単位)及び「コンピュータサイエンス概論」(2単位)を履修し、4単位を修得すること。

必要最低科目数・単位数

2 科目

4 単位

履修必須の有無

令和9年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス概論	2	○	○	○					
コンピュータサイエンス概論	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス概論	2	○	○	○					
コンピュータサイエンス概論	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス概論	2	○	○	○					
コンピュータサイエンス概論	2	○	○	○					

⑦ 「活用にあたっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス概論	2	○	○						
コンピュータサイエンス概論	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス概論	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット:「データサイエンス概論」(2回目、3回目)、「コンピュータサイエンス概論」(2回目、3回目、8回目、9回目、13回目、14回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化:「データサイエンス概論」(2回目、3回目)、「コンピュータサイエンス概論」(8回目、9回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会:「データサイエンス概論」(1回目、2回目、3回目、15回目)、「コンピュータサイエンス概論」(1回目、3回目、4回目、15回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス:「データサイエンス概論」(2回目、3回目)、「コンピュータサイエンス概論」(8回目、9回目) ・人間の知的活動とAIの関係性:「データサイエンス概論」(2回目、3回目)、「コンピュータサイエンス概論」(8回目、9回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方:「データサイエンス概論」(1回目、2回目、3回目)、「コンピュータサイエンス概論」(1回目、14回目、15回目)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル:「データサイエンス概論」(1回目、2回目、3回目、15回目)、「コンピュータサイエンス概論」(1回目、4回目、9回目) ・AI最新技術の活用例:「データサイエンス概論」(1回目、2回目、3回目、15回目)、「コンピュータサイエンス概論」(1回目、4回目、9回目、12回目、13回目、15回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど:「データサイエンス概論」(3回目) ・1次データ、2次データ、データのメタ化:「データサイエンス概論」(3回目、4回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など):「データサイエンス概論」(3回目)、「コンピュータサイエンス概論」(5回目、6回目、7回目) ・データ作成(ビッグデータとアノテーション):「データサイエンス概論」(2回目、3回目)、「コンピュータサイエンス概論」(4回目、7回目、8回目、9回目) ・データのオープン化(オープンデータ):「コンピュータサイエンス概論」(7回目)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など):「データサイエンス概論」(2回目、3回目)、「コンピュータサイエンス概論」(8回目、9回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど:「コンピュータサイエンス概論」(12回目、13回目、14回目、15回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など:「コンピュータサイエンス概論」(4回目、14回目、15回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など:「データサイエンス概論」(12回目、13回目、14回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など:「データサイエンス概論」(6回目) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など:「コンピュータサイエンス概論」(5回目、6回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ:「データサイエンス概論」(2回目、3回目)、「コンピュータサイエンス概論」(8回目、9回目) ・認識技術、ルールベース、自動化技術:「コンピュータサイエンス概論」(12回目、13回目、14回目)
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案):「データサイエンス概論」(13回目、14回目、15回目) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介:「コンピュータサイエンス概論」(9回目、12回目、13回目、14回目、15回目)
(4) 活用に当たったの様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues):「コンピュータサイエンス概論」(1回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト:「コンピュータサイエンス概論」(1回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護:「コンピュータサイエンス概論」(11回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断):「データサイエンス概論」(2回目、3回目)、「コンピュータサイエンス概論」(8回目、9回目) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス:「コンピュータサイエンス概論」(9回目) ・AIサービスの責任論:「データサイエンス概論」(2回目、3回目)、「コンピュータサイエンス概論」(8回目、9回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介:「データサイエンス概論」(2回目、3回目)、「コンピュータサイエンス概論」(8回目、9回目)
	3-2 <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性:「コンピュータサイエンス概論」(2回目、3回目、4回目、10回目、11回目) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取:「コンピュータサイエンス概論」(11回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介:「コンピュータサイエンス概論」(11回目)

(5)実データ・実課題 (学術データ等を含む) を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> データの種類(量的変数、質的変数):「データサイエンス概論」(5回目) データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値):「データサイエンス概論」(7回目) 代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い):「データサイエンス概論」(7回目) データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値):「データサイエンス概論」(9回目) 観測データに含まれる誤差の扱い:「データサイエンス概論」(12回目) 打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ:「データサイエンス概論」(12回目) 相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡):「データサイエンス概論」(10回目) 母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出):「データサイエンス概論」(12回目) クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列:「データサイエンス概論」(8回目、10回目、11回目) 統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない):「データサイエンス概論」(4回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図):「データサイエンス概論」(6回目、11回目) データの図表表現(チャート化):「データサイエンス概論」(6回目) データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト):「データサイエンス概論」(5回目) 不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素):「データサイエンス概論」(6回目、10回目) 優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など):「データサイエンス概論」(13回目、14回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> データの集計(和、平均):「データサイエンス概論」(4回目) データの並び替え、ランキング:「データサイエンス概論」(4回目、13回目、14回目) データ解析ツール(スプレッドシート):「データサイエンス概論」(4回目、13回目、14回目) 表形式のデータ(csv):「データサイエンス概論」(4回目、13回目、14回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

社会におけるデータ・AI利活用、データリテラシー、データ・AI活用における留意事項の内容を修得することができる。また、データの様々な種類の識別、適合した分析手法の理解、分析結果の数字の読み方や解釈ができるようになる。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に何うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
生成AIに関すること(どのようなものであるか、活用事例)は以下の講義で取り上げている。 「コンピュータサイエンス概論」(8回目、9回目) 「データサイエンス概論」(2回目、15回目)

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和3 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 1778 人 女性 1035 人 (合計 2813 人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数										
経済経営学部・経済学科	461	150	450	6	3	12	1	5	0							23	5%
経済経営学部・経営学科	484	150	450	67	8	37	6	33	9							137	30%
人文学部・人間科学科	429	105	470	13	0	7	0	3	0							23	5%
人文学部・英語英米文学科	219	50	200	10	1	5	0	0	0							15	8%
人文学部・こども発達学科	175	50	200	0	0	0	0	1	0							1	1%
心理学部・臨床心理学科	425	120	430	1	0	0	0	1	0							2	0%
法学部・法律学科	620	150	600	54	8	35	5	44	8							133	22%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	2,813	775	2,800	151	20	96	12	87	17	0	0	0	0	0	0	334	12%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

全学教務委員会は、全学にかかわる教務事項を審議決定する機関である。「札幌学院大学データサイエンス・AI教育プログラム」は全学を対象とした教育プログラムであることから、当委員会が情報基礎教育を担う教員とともに本プログラムを立案し、実施する。それにより、社会にあふれるデータの活用、課題の発見・解決、新たな価値創造のできる人材育成を目的とする。

⑦ 具体的な構成員

新田雅子准教授(教務部長)
 森 邦恵教授(経済経営学部教務委員長)
 眞田敬介准教授(人文学部教務委員長)
 小林 茂教授(心理学部教務委員長)
 橘井雄太講師(法学部教務委員長)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	12%	令和6年度予定	35%	令和7年度予定	60%
令和8年度予定	75%	令和9年度予定	100%	収容定員(名)	2,800

具体的な計画

本学は文系総合大学であるため、基本的に数学やコンピュータを不得手とする学生が大多数を占める。令和3年度に本プログラムとして、「データサイエンス概論」と「コンピュータサイエンス概論」を開講し、世の中でのコンピュータやデータ、AIがどのように活用されているかを知るための授業を立ち上げた。

なお、それ以前からコンピュータリテラシー教育が中心の授業は展開しており(コンピュータ基礎A・B)、データ解析の入門授業(コンピュータ応用B)を全学共通の科目として開講してきた。令和4年度には統計学の基礎知識とデータ分析の演習を行う授業を開講し(コンピュータ応用C)、データサイエンスの演習の教育をはじめた。

令和5年度から1年生へのガイダンスを行うと共に、上位学年に対しても情報ポータルなどを通して、本プログラムに関する周知と履修促進を積極的に行っている。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

大学共通の科目(教養科目)として開講している。令和6年度からは履修者が受講しやすいように、「遠隔授業(オンデマンド講義)」での開講とし、時間割配置で対面授業とは重ならないようにするとともに、両科目を前期・後期ともに開講することで多くの履修希望者が履修できるように工夫を行う。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本学公式ホームページに、データサイエンス・AI教育プログラムのページを作成、公開し、周知を行った。また、授業等を通じて、新入生へのガイダンスを行うと共に、上位学年に対しても情報ポータルなどを通して、本プログラムの周知と履修促進を積極的に行っている。令和6年度からは、新入生全員に配布する履修要項にも掲載し、年度当初のガイダンスでも周知を行う。在学生についても履修要項に掲載したページを印刷し、全員に配布してガイダンスで周知を行う。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

全学生が履修することができる教養科目として必要な科目を開講するとともに、授業内容や講義資料をLMS(Moodle)に掲載し、常に学生が学習閲覧できる環境を整えている。本学は無線LAN環境が充実しており、校舎内であればいつでもどこでもインターネットの利用が可能である。

また、令和6年度の講義について、開講形態を「遠隔授業」とし、且つ「前・後期ともに開講」することにより、できる限り多くの学生が履修・修得できる体制を整える。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

シラバスにオフィスアワーや担当教員のメールアドレスを掲載しており、学生の質問や指導を行う環境を整えている。また、LMS(Moodle)上でも質問を受け付ける窓口がある。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

全学教務委員会

(責任者名) 新田 雅子

(役職名) 教務部長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	令和3年度から開設し、指定科目の履修者と単位修得者数は毎年全学教務委員会で報告を行っている。履修者数については徐々に増えているが、修得者数が伸び悩んでいることから、このプログラムを修得することの意義等について更なる周知を行う必要がある。
学修成果	日々の授業では、LMSを通じて小テストやリアクションペーパー(相当のもの)を活用することで、学生の理解度を把握することができる。 また、毎年実施している授業評価アンケートにより授業内容を振り返り、学習・教育目標の達成度の自己評価を行うことが可能だが、回収率が低いため、大学全体で改善に向け検討中である。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	毎年度実施している授業評価アンケートの「確実に学習したか否か」の問に対し、「コンピュータサイエンス概論」は全員が70%以上と回答、「データサイエンス概論」では1名を除き全員が100%と回答している。自由記述欄への記載内容からも、「LMS(Moodle)に資料等を掲載することで理解を深めることができた。」「講義後に行う小テストやリアクションペーパーは授業の復習にもなりとても良かった。」などの意見が寄せられている。ただし、これらはプログラムを修得できた学生の意見であり、アンケート回収率も低いことからその向上について改善を図る必要がある。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	全学的に実施している授業評価アンケートでは、後輩等他の学生への推奨度を問う項目は設定されていないが、授業中に教員から後輩への推奨や、年度初めの教務ガイダンスにて本プログラムの紹介を行っている。 今後、本教育プログラムの科目を対象とした独自のアンケートの実施も検討し、後輩学生への推奨度等の調査も検討する。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	プログラム科目は卒業必修要件とはなっていないため、履修率が低い状況である。令和6年度からは履修要項に本プログラムについて掲載を行い、教育支援課の行うガイダンスを通して説明を行い、履修を促すこととしたい。 また、令和6年度からは、遠隔授業開講及び複数クラス開講とし、キャンパスに関わらず、多くの学生が履修・学修可能となるように進めている。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本プログラムは令和3年度に開始し、令和6年度末に最初の卒業生を輩出することとなるため、現状では本プログラム修了者の進路調査・活躍状況調査・企業からの評価は実施していない。 プログラム終了生並びに主な就職先である企業等に対する評価調査については、今後検討をする。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>現時点では、産業界や外部からの評価について、調査を行っていないが、調査方法も含めて検討を行う。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>リテラシーレベルの導入に準じた内容を中心に、また常に身近な例を引きながらデータサイエンスの適用事例やAI等の活用を中心に、興味を持つ講義内容としている。 例えば受講生の中にスポーツ競技をしている学生がいる場合は、その競技で得られる様々なデータから特徴的なことの紹介、身近なところではPOSデータのしくみやそのデータの使われ方などを、意識的に取得するデータと無意識で採取されるデータが世の中には多くあることを紹介している。またそれらがどのように分析され、利用されているのかを常に意識させながら授業展開している。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>モデルカリキュラムを常に確認するとともに、授業時のリアクションペーパーや授業評価アンケートの学生の意見を参考に、わかりやすい授業が展開するよう講義内容の見直しを図り、絶えず授業改善に努めている。またAIやデータサイエンスの分野は日々発展しており、学術研究の進展と世の中での使われ方などをいつも確認し、それを授業で反映できるようにしている。 本学は文系総合大学で数学的・理系的な話が不得手な受講生が多いため、意識的に身近な例を示しながら授業展開している。</p>

授業科目名：データサイエンス概論	単位数：2単位	担当教員名：中村 永友 担当形態：単独
<p>授業の方法：面接授業</p> <p>講義形式なので、基本的な知識の供与をします。また、毎回の授業では身の回りにあるデータサイエンスを認識するための行為（演習、文献探し、調べもの等々）を行ってまいります。</p>		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>データサイエンスがどのように世の中で役に立っているのか深く理解すること。</p>		
<p>授業の概要</p> <p>データサイエンス（Data Science：DS）は、データを中心軸として情報科学、統計学などのアプローチから有益な知見やビジネス上の便宜・供与・便益をもたらすような、素材・根拠・分析・道具を与えるための学問です。コンピュータの先端分野である、機械学習や深層学習等の AI 技術と深く関連しており、学術的な研究や産業界における応用のために近年注目されています。この講義では、データサイエンスを理解できるよう、定義、歴史、種類、具体的な適用例やツールについて紹介します。</p>		
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス 授業の進め方、学習のしかた（予習・復習）、授業全体の概要</p> <p>第2回 社会におけるデータ・AI活用1</p> <p>第3回 社会におけるデータ・AI活用2：様々なデータの社会での活用</p> <p>第4回 身近な数字で気をつけること、統計って何？</p> <p>第5回 データリテラシー1：質的量的データ、各種尺度</p> <p>第6回 グラフリテラシー：棒グラフ、ヒストグラム、円グラフ、帯グラフ、折れ線グラフ、2軸のグラフ、レーダーチャート、複合棒グラフ</p> <p>第7回 データの中心傾向を表す代表値1：平均値、中央値、最頻値</p> <p>第8回 データの中心傾向を表す代表値2：四分位数、箱ひげ図</p> <p>第9回 データの散らばりを表す代表値1：分散、標準偏差、範囲、変動係数</p> <p>第10回 データの散らばりを表す代表値2：四分位範囲、四分位偏差、歪度、尖度、相関係数、共分散</p> <p>第11回 データの関連性：散布図、クロス表</p> <p>第12回 データリテラシー2：誤差、打ち切り、層別、相関と因果、母集団と標本抽出</p> <p>第13回 教師あり学習と教師なし学習 データサイエンスの手法1_教師あり学習：回帰分析、数量化I類II類、判別分析、ロジスティック回帰</p> <p>第14回 データサイエンスの手法2_教師なし学習：主成分分析、クラスタリング、数量化III類IV類、ニューラルネットワーク</p> <p>第15回 全体のまとめ</p> <p>定期試験 実施しない</p>		
<p>テキスト</p> <p>使用しない</p>		
<p>参考書・参考資料等</p> <p>使用しない。</p>		
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の振り返りと課題への解答・回答、レポート課題で成績評価する。 詳細はMoodleに掲載するので、授業計画、成績評価、各回の課題はそちらを参照すること。</p>		

授業科目名：コンピュータサイエンス概論	単位数：2単位	担当教員名： 石川 千温、皆川 雅章、 森田 彦、渡邊 慎哉、 中村 永友 担当形態：オムニバス
授業の方法：面接授業 授業は様々なコンピュータと身の回りで起きていることに対する理解を深めるために、知識の供与を行う。各講師が課題を出すので、自分の身の回りのことを意識してそれに関することを解答してもらいます。		
授業の到達目標及びテーマ 身の回りに存在するコンピュータを意識して生活出来るようになること。		
授業の概要 今日、スマートホンや IOT 家電をはじめとする身の回りにあるコンピュータの存在、それらのネットワークは、現代人の生活に不可欠な存在で、身近なコンピュータは意識しない空気のようなものである。本講義はコンピュータサイエンスの初学者を対象として、コンピュータの歴史、仕組み、今日的な使われ方、社会的役割などを知ることを目的とする。また、最先端の話題として、Society5.0（人工知能、ビッグデータ、IoT、ロボティクスなど）の話題にも触れ、これからのコンピュータが担う役割を考える。この授業を通してコンピュータをより便利に、より豊かに使えるようになるきっかけとなしてほしい。		
授業計画 第1回 ガイダンス、本講義の全体説明、Society5.0とは（中村） 第2回 これだけは知っておきたいプログラミングの話（森田） 第3回 インターネットはなぜ広まったのか？（森田） 第4回 ITとビジネス（森田） 第5回 マルチメディア（皆川） 第6回 デジタルアーカイブ（皆川） 第7回 データベース（皆川） 第8回 AIとは、AIの歴史（渡邊） 第9回 AIのトピックス（渡邊） 第10回 インターネットの仕組み（主にプロトコル）（渡邊） 第11回 ネットワークセキュリティ（主に暗号化）（渡邊） 第12回 フィンテック（石川） 第13回 自動運転の未来（石川） 第14回 情報のお仕事（石川） 第15回 データサイエンスとは、全体のまとめ（中村） 定期試験 実施しない		
テキスト 使用しない		
参考書・参考資料等 使用しない		
学生に対する評価 各担当教員の評価を集計して最終的な成績評価を行う。課題はMoodleに提示されるので、フィードバックはこれを通して行う。		

2023年度教養科目・全学共通科目開講一覧表

1. 教養科目開講一覧表

2023年度教養科目開講一覧表

※注1 [経] 経済学科、[経営] 経営学科、[臨] 臨床心理学科、[法] 法律学科、[人] 人間科学科、[英] 英語英米文学科、[こ] こども発達学科

※注2 学科指定欄に記載のある科目の履修が可能（○、◇、□）

※注3 ○印=教養科目認定 ◇印=[経営] [臨] [法] 専門科目認定、[こ] 自由選択科目認定 □印=[経営] [臨] [法] その他の教養科目の単位として認定

分類	科目名称	開講期間	単位	配当年次	開講曜日・講時	担当教員	学 科 指 定							備考
							経	経営	臨	法	人	英	こ	
基礎科目群	英語ⅠA(1)～(30)	前期	1	1～4	月～金・1	木村 有咲ほか	○	○	○	○	○	○	○	必修学科は事前登録されているクラスを確認の上、履修すること。
	英語ⅡA(1)～(30)	後期	1	1～4	月～金・1	木村 有咲ほか	○	○	○	○	○	○	○	
	英語ⅠB(1)～(43)	前期	1	1～4	月～金・1&2	ミュア B.J.ほか	○	○	○	○	○	○	○	
	英語ⅡB(1)～(43)	後期	1	1～4	月～金・1&2	ミュア B.J.ほか	○	○	○	○	○	○	○	
	英語ⅢA(1)～(12)	前期	1	2～4	月～金・2	中村 亜希ほか	○	○	○	○	○	○	○	
	英語ⅣA(1)～(12)	後期	1	2～4	月～金・2	中村 亜希ほか	○	○	○	○	○	○	○	
	英語ⅢB(1)～(13)	前期	1	2～4	月～金・1	フォルトナト H.ほか	○	○	○	○	○	○	○	
	英語ⅣB(1)～(13)	後期	1	2～4	月～金・1	フォルトナト H.ほか	○	○	○	○	○	○	○	
	応用英語A	前期	1	2～4	木4	中村 早百合	□	□	□	○	○	○	◇	
	応用英語B	後期	1	2～4	木4	中村 早百合	□	□	□	○	○	○	◇	
	応用英語C	前期	1	2～4	月4	高橋 ヘレン	□	□	□	○	○	○	◇	
	応用英語D	後期	1	2～4	月4	高橋 ヘレン	□	□	□	○	○	○	◇	
	初級独語A	前期	1	1～4	月3	坂 敏宏	□	□	□	○	○	○	◇	
	初級独語B	後期	1	1～4	月3	坂 敏宏	□	□	□	○	○	○	◇	
	初級独語C	-	1	1～4	-	2023年度休講	□	□	□	○	○	○	◇	
	初級独語D	-	1	1～4	-	2023年度休講	□	□	□	○	○	○	◇	
	応用独語A	前期	1	2～4	月4	坂 敏宏	□	□	□	○	○	○	◇	
	応用独語B	後期	1	2～4	月4	坂 敏宏	□	□	□	○	○	○	◇	
	応用独語C	-	1	2～4	-	2023年度休講	□	□	□	○	○	○	◇	
	応用独語D	-	1	2～4	-	2023年度休講	□	□	□	○	○	○	◇	
	初級仏語A	前期	1	1～4	月3	村上 友一	□	□	□	○	○	○	◇	
	初級仏語B	後期	1	1～4	月3	村上 友一	□	□	□	○	○	○	◇	
	初級仏語C	前期	1	1～4	木4	黒澤 恵美子	□	□	□	○	○	○	◇	
	初級仏語D	後期	1	1～4	木4	黒澤 恵美子	□	□	□	○	○	○	◇	
	応用仏語A	前期	1	2～4	月4	村上 友一	□	□	□	○	○	○	◇	
	応用仏語B	後期	1	2～4	月4	村上 友一	□	□	□	○	○	○	◇	
	応用仏語C	前期	1	2～4	木3	黒澤 恵美子	□	□	□	○	○	○	◇	
	応用仏語D	後期	1	2～4	木3	黒澤 恵美子	□	□	□	○	○	○	◇	
	初級中国語A	前期	1	1～4	月3	大沼 尚子	□	□	□	○	○	○	◇	
	初級中国語B	後期	1	1～4	月3	大沼 尚子	□	□	□	○	○	○	◇	
	初級中国語C	前期	1	1～4	木4	張 江林	□	□	□	○	○	○	◇	
	初級中国語D	後期	1	1～4	木4	張 江林	□	□	□	○	○	○	◇	
	応用中国語A	前期	1	2～4	月4	大沼 尚子	□	□	□	○	○	○	◇	
	応用中国語B	後期	1	2～4	月4	大沼 尚子	□	□	□	○	○	○	◇	
	応用中国語C	前期	1	2～4	木3	李 樹華	□	□	□	○	○	○	◇	
	応用中国語D	後期	1	2～4	木3	李 樹華	□	□	□	○	○	○	◇	
	初級韓国語A	前期	1	1～4	月3	バク ジョン	□	□	□	○	○	○	◇	
	初級韓国語B	後期	1	1～4	月3	バク ジョン	□	□	□	○	○	○	◇	
	初級韓国語C	前期	1	1～4	木4	朴 武欽	□	□	□	○	○	○	◇	
	初級韓国語D	後期	1	1～4	木4	朴 武欽	□	□	□	○	○	○	◇	
	応用韓国語A	前期	1	2～4	月4	金 美花	□	□	□	○	○	○	◇	
	応用韓国語B	後期	1	2～4	月4	金 美花	□	□	□	○	○	○	◇	
	応用韓国語C	前期	1	2～4	木3	李 英愛	□	□	□	○	○	○	◇	
	応用韓国語D	後期	1	2～4	木3	李 英愛	□	□	□	○	○	○	◇	
	日本語A(1)	前期	1	1～4	木4	笹山 恵利				○	○	○	◇	
日本語A(2)	前期	1	1～4	木4	松尾 浩見	○	○	□						
日本語A(3)	前期	1	1～4	木2	歌代 礼子	○	○	□						
日本語B(1)	後期	1	1～4	木4	笹山 恵利				○	○	○	◇		
日本語B(2)	後期	1	1～4	木4	松尾 浩見	○	○	□						
日本語B(3)	後期	1	1～4	木2	歌代 礼子	○	○	□						
日本語C(1)	前期	1	1～4	火2	佐藤 章				○	○	○	◇		
日本語C(2)	前期	1	1～4	火2	歌代 礼子	○	○	□						
日本語C(3)	前期	1	1～4	水1	歌代 礼子	○	○	□						
日本語D(1)	後期	1	1～4	火2	佐藤 章				○	○	○	◇		
日本語D(2)	後期	1	1～4	火2	歌代 礼子	○	○	□						
日本語D(3)	後期	1	1～4	水1	歌代 礼子	○	○	□						
応用日本語A(1)	前期	1	1～4	木3	笹山 恵利				○	○	○	◇		
応用日本語A(2)	前期	1	1～4	木3	松尾 浩見	○	○	□						
応用日本語B(1)	後期	1	1～4	木3	笹山 恵利				○	○	○	◇		
応用日本語B(2)	後期	1	1～4	木3	松尾 浩見	○	○	□						

外国人留学生のみ履修可。

2023年度教養科目・全学共通科目開講一覧表

1. 教養科目開講一覧表

2023年度教養科目開講一覧表

※注1 [経] 経済学科、[経営] 経営学科、[臨] 臨床心理学科、[法] 法律学科、[人] 人間科学科、[英] 英語英米文学科、[こ] こども発達学科

※注2 学科指定欄に記載のある科目の履修が可能 (○、◇、□)

※注3 ○印=教養科目認定 ◇印=[経営] [臨] [法] 専門科目認定、[こ] 自由選択科目認定 □印=[経営] [臨] [法] その他の教養科目の単位として認定

分類	科目名称	開講期間	単 位	配当 年次	開講 曜日・講時	担当教員	学 科 指 定							備 考		
							経	経営	臨	法	人	英	こ			
基礎科目群	論述・作文A (1)	前期	2	1~4	月1	大川 良輔								○	クラス指定を行う。情報ポータル画面で登録されたクラスを確認すること。 [経営][法][人][英][臨]の新入生は必ず履修すること。 ※再履修希望者は、期日までに教育支援課窓口で申込が必要です。(クラス指定有り) 経済クラス(9)(12)、こども発達学科(1)クラスは自由選択科目。 経済クラスは「論述・作文」を履修した場合は、通年(前期A・後期B)で履修することと	
	論述・作文A (2)	前期	2	1~4	月3	岸本 宜久			○							
	論述・作文A (3)	前期	2	1~4	月3	白石 英才			○							
	論述・作文A (4)	前期	2	1~4	火1	佐藤 亮太郎				○						
	論述・作文A (5)	前期	2	1~4	火1	高木 唯				○						
	論述・作文A (6)	前期	2	1~4	火2	岸本 宜久					○					
	論述・作文A (7)	前期	2	1~4	火2	高木 維					○					
	論述・作文A (8)	前期	2	1~4	水1	佐藤 亮太郎						○				
	論述・作文A (9)	前期	2	1~4	金1	白石 英才	○									
	論述・作文A (10)	前期	2	1~4	金2	岸本 宜久		○								
	論述・作文A (11)	前期	2	1~4	金2	大川 良輔		○								
	論述・作文A (12)	前期	2	1~4	金3	岸本 宜久	○									
	論述・作文A (13)	前期	2	1~4	金4	山藤 顕		○								
	論述・作文B (1)	後期	2	1~4	月1	大川 良輔								○		
	論述・作文B (2)	後期	2	1~4	月3	岸本 宜久			○							
	論述・作文B (3)	後期	2	1~4	月3	白石 英才			○							
	論述・作文B (4)	後期	2	1~4	火1	佐藤 亮太郎				○						
	論述・作文B (5)	後期	2	1~4	火1	高木 唯				○						
	論述・作文B (6)	後期	2	1~4	火2	岸本 宜久					○					
	論述・作文B (7)	後期	2	1~4	火2	高木 維					○					
	論述・作文B (8)	後期	2	1~4	水1	佐藤 亮太郎						○				
	論述・作文B (9)	後期	2	1~4	金1	白石 英才	○									
	論述・作文B (10)	後期	2	1~4	金2	岸本 宜久		○								
	論述・作文B (11)	後期	2	1~4	金2	大川 良輔		○								
	論述・作文B (12)	後期	2	1~4	金3	岸本 宜久	○									
	論述・作文B (13)	後期	2	1~4	金4	山藤 顕		○								
	コンピュータ基礎A (1)	前期	2	1~4	月1	中村 永友			○							クラス指定を行う。情報ポータル画面で登録されたクラスを確認すること。 [経営][法][人][英][臨]の新入生は必ず履修すること。 ※再履修希望者は、期日までに教育支援課窓口で申込が必要です。(クラス指定有り)
	コンピュータ基礎A (2)	前期	2	1~4	月2	石川 千温				○						
	コンピュータ基礎A (3)	前期	2	1~4	火2	中村 永友							○			
	コンピュータ基礎A (4)	前期	2	1~4	水1	中村 永友					○					
	コンピュータ基礎A (5)	前期	2	1~4	木1	渡邊 慎哉						○				
	コンピュータ基礎A (6)	前期	2	1~4	木2	渡邊 慎哉							○			
	コンピュータ基礎A (7)	前期	2	1~4	金1	石川 千温	○									
コンピュータ基礎A (8)	前期	2	1~4	金2	石川 千温		○				○					
コンピュータ基礎A (9)	前期	2	1~4	金3	大沼 春子	○										
コンピュータ基礎A (10)	前期	2	1~4	金4	大沼 春子		○									
コンピュータ基礎A (11)	前期	2	1~4	月1	石川 千温			○								
コンピュータ基礎B (1)	後期	2	1~4	月1	中村 永友			○								
コンピュータ基礎B (2)	後期	2	1~4	月2	石川 千温				○							
コンピュータ基礎B (3)	後期	2	1~4	火2	中村 永友							○				
コンピュータ基礎B (4)	後期	2	1~4	水1	中村 永友					○						
コンピュータ基礎B (5)	後期	2	1~4	木1	渡邊 慎哉						○					
コンピュータ基礎B (6)	後期	2	1~4	木2	渡邊 慎哉							○				
コンピュータ基礎B (7)	後期	2	1~4	金1	渡邊 慎哉	○										
コンピュータ基礎B (8)	後期	2	1~4	金2	渡邊 慎哉		○				○					
コンピュータ基礎B (9)	後期	2	1~4	金3	大沼 春子	○										
コンピュータ基礎B (10)	後期	2	1~4	金4	大沼 春子		○									
コンピュータ基礎B (11)	後期	2	1~4	月1	石川 千温			○								
コンピュータ応用A	後期	2	2~4	金1	皆川 雅章	□	□	□	○	○	○	○	◇	コンピュータ基礎A・Bの単位修得者のみ履修可。人数制限有り。		
コンピュータ応用B (1)	前期	2	2~4	木2	中村 永友	□	□	□	○	○	○	○	◇			
コンピュータ応用B (2)	後期	2	2~4	木2	中村 永友	□	□	□	○	○	○	○	◇			
コンピュータ応用C	前期	2	2~4	月5	中村 永友	□	□	□	○	○	○	○	◇			

2023年度教養科目・全学共通科目開講一覧表

1. 教養科目開講一覧表

2023年度教養科目開講一覧表

※注1 [経] 経済学科、[経営] 経営学科、[臨] 臨床心理学科、[法] 法律学科、[人] 人間科学科、[英] 英語英米文学科、[こ] こども発達学科

※注2 学科指定欄に記載のある科目の履修が可能（○、◇、□）

※注3 ○印=教養科目認定 ◇印=[経営] [臨] [法] 専門科目認定、[こ] 自由選択科目認定 □印=[経営] [臨] [法] その他の教養科目の単位として認定

分類	科目名称	開講 期間	単 位	配当 年次	開講 曜日・講時	担当教員	学 科 指 定							備考		
							経	経営	臨	法	人	英	こ			
人文・社会・健康・自然科目群	哲学（1）	前期	2	1~4	水4	川端 繁之	○	○	○	○	○	○	○	◇		
	哲学（2）	後期	2	1~4	木3	川端 繁之	○	○	○	○	○	○	○	◇		
	哲学（3）	前期	2	1~4	水4	宮野 晃一郎	○	○	○	○	○	○	○	◇		
	倫理学	前期	2	1~4	月4	水野 邦彦	○	□	□	○	○	○	○	◇		
	宗教学（1）	前期	2	1~4	火2	堀 雅彦	○	○	○	○	○	○	○	◇		
	宗教学（2）	後期	2	1~4	火2	堀 雅彦	○	○	○	○	○	○	○	◇		
	宗教学（3）	後期	2	1~4	火3	堀 雅彦	○	○	○	○	○	○	○	◇		
	日本史（1）	前期	2	1~4	水2	諸 洪一					○	○	○	○	◇	
	日本史（2）	前期	2	1~4	木2	諸 洪一	○	○	○							
	日本近代史（1）	後期	2	1~4	金4	山田 伸一				○	○	○	○	◇		
	日本近代史（2）	前期	2	1~4	木2	山田 伸一				○	○	○	○	◇		
	日本近代史（3）	前期	2	1~4	金3	諸 洪一	○	○	○							
	北海道史（1）	前期	2	1~4	火3	井上 将文	○	○	○							
	北海道史（2）	後期	2	1~4	水3	井上 将文				○	○	○	○	◇		
	世界史A	後期	2	1~4	火2	田村 理	□	□	□	○	○	○	○	◇		
	世界史B	後期	2	1~4	火1	佐藤 健太郎	□	□	□	○	○	○	○	◇		
	世界の音楽（1）	前期	2	1~4	火3	栢谷 隆男	□	□	□	○	○	○	○	◇		
	世界の音楽（2）	後期	2	1~4	火3	栢谷 隆男	□	□	□	○	○	○	○	◇		
	東洋の美術	後期	2	1~4	金3	平 利弘	□	□	□	○	○	○	○	◇		
	ヨーロッパの美術	前期	2	1~4	金3	平 利弘	□	□	□	○	○	○	○	◇		
	世界の言語と日本語（1）	前期	2	1~4	木2	岸本 宣久	○	○	○	○	○	○	○	◇		
	世界の言語と日本語（2）	前期	2	1~4	火4	岸本 宣久	○	○	○	○	○	○	○	◇		
	言語と社会	後期	2	1~4	木2	岸本 宣久	□	□	□	○	○	○	○	◇		
	言語と数理	-	2	1~4	-	2023年度休講	□	□	□	○	○	○	○	◇		
	日本文学	後期	2	1~4	火5	木谷 満	□	□	□	○	○	○	○	◇		
	外国文学	前期	2	1~4	火3	岡崎 清	□	□	□	○	○	○	○	◇		
	現代と法	後期	2	1~4	火4	小澤 隆司	□	□	□	○	○	○	○	◇		
	日本国憲法（1）	前期	2	1~4	火1	山田 哲	○	○	○	○	○	○	○	◇		
	日本国憲法（2）	後期	2	1~4	火1	山田 哲	○	○	○	○	○	○	○	◇		
	人権論	前期	2	1~4	火4	小澤 隆司	□	□	□	○	○	○	○	◇		
	くらしと現代経済	前期	2	1~4	月4	浅川 雅己	○			○	○	○	○	◇		
	現代ビジネス論（1）	前期	2	1~4	火3	吉川 哲生ほか	○			○	○	○	○	◇		
	現代ビジネス論（2）	後期	2	1~4	火3	吉川 哲生ほか		◇								
	社会学（1）	前期	2	1~4	水3	湯本 誠				○	○	○	○	◇		
	社会学（2）	後期	2	1~4	水3	湯本 誠				○	○	○	○	◇		
	社会学（3）	前期	2	1~4	水3	加藤 倫子	○	○	○							
	北海道社会論	前期	2	1~4	火2	大國 充彦	○	○	○	○	○	○	○	◇		
	アジア事情A（1）	前期	2	1~4	水4	網谷 義男	○	○	○							
	アジア事情A（2）	後期	2	1~4	水4	網谷 義男	○	○	○	○	○	○	○	◇		
	アジア事情B（1）	前期	2	1~4	金2	諸 洪一	○	○	○	○	○	○	○	◇		
	アジア事情B（2）	-	2	1~4	-	2023年度休講										
	教育学	後期	2	1~4	金2	白石 淳	□	□	□	○	○	○	○	◇		
	現代の福祉	前期	2	1~4	木4	田中 敦	□	□	□	○	○	○	○	◇		
	心理学（1）	前期	2	1~4	金2	栗林 克匡	○	○	○							
	心理学（2）	前期	2	1~4	金1	河合 直樹				○		○	○	◇		学科指定あり。
	心理学（3）	後期	2	1~4	火3	森 直久	○	○	◇							
	健康科学（1）	前期	2	1~4	火1	北田 雅子				○	○	○	○	◇		
	健康科学（2）	後期	2	1~4	火1	北田 雅子	○	○	○							
	心理学概説	後期	2	1~4	木2	大谷 和夫			□		○		○	◇		
	スポーツと健康（1）	前期	2	1~4	水2	北田 雅子				○	○	○	○	◇		
スポーツと健康（2）	後期	2	1~4	水2	北田 雅子	○	○	○								
スポーツA（1）	前期	1	1~4	水2	濱野 貢	○	○	□	○	○	○	○	◇			
スポーツA（2）	前期	1	1~4	水3	濱野 貢	○	○	○	○	○	○	○	◇			
スポーツA（3）	前期	1	1~4	木1	濱野 貢	○	○	□	○	○	○	○	◇		履修登録の上、第1回目の授業に必ず出席すること。	
スポーツA（4）	前期	1	1~4	金1	濱野 貢	○	○	□	○	○	○	○	◇		（場所は、すべて第二キャンパス・メインアリーナです。）	
スポーツA（5）	前期	1	1~4	金2	濱野 貢							○	◇			
スポーツB（1）	後期	1	1~4	水2	濱野 貢	○	○	□	○	○	○	○	◇			
スポーツB（2）	後期	1	1~4	水3	濱野 貢	○	○	□	○	○	○	○	◇			
スポーツB（3）	後期	1	1~4	木1	濱野 貢	○	○	□	○	○	○	○	◇		※こども発達学科は指定のクラスで受けてください。	
スポーツB（4）	後期	1	1~4	金1	濱野 貢	○	○	□	○	○	○	○	◇			
スポーツB（5）	後期	1	1~4	金2	濱野 貢								○			
統計学	前期	2	1~4	火1	中村 永友	□	□	□	○	○	○	○	◇			
物理学	-	2	1~4	-	2023年度休講	□	□	□	○	○	○	○	◇			
地学（1）	-	2	1~4	-	2023年度休講	□	□	□	○	○	○	○	◇			
地学（2）	-	2	1~4	-	2023年度休講	□	□	□	○	○	○	○	◇			
地球の科学（1）	後期	2	1~4	木1	小出 良幸	□	□	□	○	○	○	○	◇			
地球の科学（2）	後期	2	1~4	木2	小出 良幸	□	□	□	○	○	○	○	◇			
生命科学	-	2	1~4	-	2023年度休講	□	□	□	○	○	○	○	◇			
環境論	-	2	1~4	-	2023年度休講	□	□	□	○	○	○	○	◇			
自然科学概論（1）	-	2	1~4	-	2023年度休講	□	□	□	○	○	○	○	◇			
自然科学概論（2）	-	2	1~4	-	2023年度休講	□	□	□	○	○	○	○	◇			

2023年度教養科目・全学共通科目開講一覧表

1. 教養科目開講一覧表

2023年度教養科目開講一覧表

※注1 [経] 経済学科、[経営] 経営学科、[臨] 臨床心理学科、[法] 法律学科、[人] 人間科学科、[英] 英語英米文学科、[こ] こども発達学科

※注2 学科指定欄に記載のある科目の履修が可能（○、◇、□）

※注3 ○印=教養科目認定 ◇印=[経営] [臨] [法] 専門科目認定、[こ] 自由選択科目認定 □印=[経営] [臨] [法] その他の教養科目の単位として認定

分類	科目名称	開講期間	単位	配当年次	開講曜日・講時	担当教員	学 科 指 定							備考			
							経	経営	臨	法	人	英	こ				
キャリア・総合科目群	キャリア数学A(1)	前期	1	1~4	月1	皆川 雅章	○	○	○								
	キャリア数学A(2)	前期	1	1~4	水4	皆川 雅章				◇	○	○	◇				
	キャリア数学A(3)	後期	1	1~4	月1	皆川 雅章	○	○	○								
	キャリア数学A(4)	後期	1	1~4	水4	皆川 雅章				◇	○	○	◇				
	キャリア数学B(1)	前期	1	2~4	火3	石川 千温				◇	○	○	◇				
	キャリア数学B(2)	後期	1	2~4	金3	石川 千温	○	○	○								
	ビジネス数学(1)	前期	2	3~4	火4	石川 千温				◇	○	○	◇				
	ビジネス数学(2)	後期	2	3~4	金4	石川 千温	○	○	○								
	データサイエンス概論	後期	2	1~4	火5	中村 永友	□	□	□	◇	○	○	◇				
	コンピュータサイエンス概論	前期	2	1~4	火5	中村 永友 他	□	□	□	◇	○	○	◇				
	キャリアデザイン演習A(1)	後期	2	1~4	木2	松代 弘之				◇	○	○	◇				
	キャリアデザイン演習A(2)	後期	2	1~4	木3	松代 弘之	□	◇	○								
	キャリアデザイン演習A(3)	後期	2	1~4	木4	松代 弘之	□	◇	○								
	キャリアデザイン演習B(1)	前期	2	2~4	木2	松代 弘之				◇	○	○	◇				
	キャリアデザイン演習B(2)	前期	2	2~4	木3	松代 弘之	□	◇	○								
	キャリアデザイン演習B(3)	前期	2	2~4	木4	松代 弘之	□	◇	○								
	職業と人生A(1)	後期	2	1~4	月3	別当屋敷 美穂	○										
	職業と人生A(2)	後期	2	1~4	月4	別当屋敷 美穂		◇									
	職業と人生A(3)	後期	2	1~4	金3	別当屋敷 美穂				◇							
	職業と人生A(4)	後期	2	1~4	金4	別当屋敷 美穂						○	○	◇			
	職業と人生B(1)	前期	2	2~4	月3	別当屋敷 美穂	○	◇	○								
	職業と人生B(2)	前期	2	2~4	月4	別当屋敷 美穂	○	◇	○								
	職業と人生B(3)	前期	2	2~4	金3	別当屋敷 美穂				◇	○	○	◇				
	職業と人生B(4)	前期	2	2~4	金4	別当屋敷 美穂				◇	○	○	◇				
	職業と人生C(1)	前期	2	3~4	木3	廣崎 匡	○	◇	○								
	職業と人生C(2)	前期	2	3~4	木3	平野 恵子				◇	○						
	職業と人生C(3)	前期	2	3~4	木3	藤原 佳世						○	○	◇			
	職業と人生D(1)	後期	2	3~4	木3	廣崎 匡	○	◇	○								
	職業と人生D(2)	後期	2	3~4	木3	平野 恵子				◇	○						
	職業と人生D(3)	後期	2	3~4	木3	藤原 佳世											
	企業の経営と仕事	前期	2	2~4	金3	田中 敦士	○	○	○			○	○	◇			
	心理学検定演習A	-	2	1~4	-	2023年度休講	□	□	○			○	○	◇			・隔年開講による休講
	心理学検定演習B	-	2	1~4	-	2023年度休講	□	□	○			○	○	◇			・隔年開講による休講
	心理学検定演習C	-	2	1~4	-	2023年度休講	□	□	○			○	○	◇			・隔年開講による休講
	心理学検定演習D	前期	2	1~4	火4	森 直久	□	□	○			○	○	◇			
	心理学検定演習E	前期	2	1~4	水5	森 直久	□	□	○			○	○	◇			
	精神保健課題演習A	前期	2	3~4	-	2024年度開講	□	□	○			○	○	◇			2024年度から開講
	精神保健課題演習B	前期	2	4	-	2025年度開講	□	□	○			○	○	◇			2025年度から開講
	精神保健課題演習C	前期	2	4	-	2025年度開講	□	□	○			○	○	◇			2025年度から開講
	教養ゼミナールA(1)	前期	2	1~4	水5	黄 昕	□	□	□	○	○	○	○	◇			各講義それぞれ人数制限を行う。Aは前期、Bは後期の第1回目の授業に必ず参加すること。
	教養ゼミナールA(2)	前期	2	1~4	木2	小林 茂	□	□	□	○	○	○	○	◇			履修登録方法は2通りある。
	教養ゼミナールA(3)	前期	2	1~4	火5	久藤 孝幸・小林 茂	□	□	□	○	○	○	○	◇			①Web履修登録画面から登録(抽選)
	教養ゼミナールA(4)	前期	2	1~4	月5	奥田 統己	□	□	□	○	○	○	○	◇			②第1回目の授業参加時に、担当の先生から履修許可を得る。＊自身では登録できない。
	教養ゼミナールA(5)	前期	2	1~4	金5	河合 直樹	□	□	□	○	○	○	○	◇			
	教養ゼミナールA(6)	前期	2	1~4	火1	佐野 友泰	□	□	□	○	○	○	○	◇			
教養ゼミナールA(7)	前期	2	1~4	火3	榊 ひとみ	□	□	□	○	○	○	○	◇				
教養ゼミナールB(1)	後期	2	1~4	木2	小林 茂	□	□	□	○	○	○	○	◇				
教養ゼミナールB(2)	後期	2	1~4	火5	久藤 孝幸・小林 茂	□	□	□	○	○	○	○	◇			各講義、どちらの履修登録方法になるかは、履修登録マニュアル、または履修要項に記載されている『教養ゼミナール・全学共通特別演習テーマ一覧』を確認すること。	
教養ゼミナールB(3)	後期	2	1~4	月5	奥田 統己	□	□	□	○	○	○	○	◇				
教養ゼミナールB(4)	後期	2	1~4	金5	河合 直樹	□	□	□	○	○	○	○	◇				
教養ゼミナールB(5)	後期	2	1~4	火1	佐野 友泰	□	□	□	○	○	○	○	◇				
教養ゼミナールB(6)	後期	2	1~4	火4	森 直久	□	□	□	○	○	○	○	◇				
教養ゼミナールB(7)	後期	2	1~4	火3	榊 ひとみ	□	□	□	○	○	○	○	◇				
教養ゼミナールB(8)	後期	2	1~4	月4	浅沼 裕治	□	□	□	○	○	○	○	◇				
全学共通特別演習A(1)	前期	2	2~4	水6	黄 昕	□	□	□	○	○	○	○	◇			履修登録方法は、教養ゼミナールAと同様	
全学共通特別演習A(2)	前期	2	2~4	水6	栃真賀 透	□	□	□	○	○	○	○	◇				
全学共通特別演習A(3)	前期	2	2~4	水6	佐藤 満	□	□	□	○	○	○	○	◇				
全学共通特別演習A(4)	前期	2	2~4	火1	山本 彩	□	□	□	○	○	○	○	◇				
全学共通特別演習B(1)	後期	2	2~4	水6	栃真賀 透	□	□	□	○	○	○	○	◇			履修登録方法は教養ゼミナールBと同様	
全学共通特別演習B(2)	後期	2	2~4	月4	大澤 真平 ほか	□	□	□	○	○	○	○	◇				
全学共通特別演習B(3)	後期	2	2~4	水6	佐藤 満	□	□	□	○	○	○	○	◇				
全学共通特別演習B(4)	後期	2	2~4	火6	井上 大樹 ほか	□	□	□	○	○	○	○	◇				
全学共通特別演習C(1)	前期	2	3~4	水3	大宮 秀淑 ほか	□	□	□	○	○	○	○	◇			(1)は開講曜時が不規則のため、第1回目講義での教員の指示に従うこと。	
全学共通特別演習C(2)	前期	2	3~4	月3	中村 裕子	□	□	□	○	○	○	○	◇			履修登録方法は、教養ゼミナールAと同様	
全学共通特別演習D(1)	後期	2	3~4	月3	中村 裕子・定平 憲之	□	□	□	○	○	○	○	◇			履修登録方法は教養ゼミナールBと同様	

2023年度教養科目・全学共通科目開講一覧表

1. 教養科目開講一覧表

2023年度教養科目開講一覧表

※注1 [経] 経済学科、[経営] 経営学科、[臨] 臨床心理学科、[法] 法律学科、[人] 人間科学科、[英] 英語英米文学科、[こ] こども発達学科

※注2 学科指定欄に記載のある科目の履修が可能（○、◇、□）

※注3 ○印＝教養科目認定 ◇印＝[経営] [臨] [法] 専門科目認定、[こ] 自由選択科目認定 □印＝[経営] [臨] [法] その他の教養科目の単位として認定

分類	科目名称	開講 期間	単 位	配当 年次	開講 曜日・講時	担当教員	学 科 指 定							備 考
							経	経営	臨	法	人	英	こ	
地域連携科目群	地域貢献A(1)	前期	2	1~4	土1	浅沼 裕治・濱野 貴	□	□	□	□	□	□	□	
	地域貢献A(2)	前期	2	1~4	火6	井上 大樹・河西 邦人	□	□	□	□	□	□	□	
	地域貢献A(3)	前期	2	1~4	水5	河西 邦人	□	□	□	□	□	□	□	
	地域貢献活動A	-	1	1~4	-	教務部長	□	□	□	□	□	□	□	
	地域貢献B	-	2	1~4	-	2023年度休講	□	□	□	□	□	□	□	・隔年開講による休講
	地域貢献活動B	-	1	1~4	-	2023年度休講	□	□	□	□	□	□	□	・隔年開講による休講
	地域貢献C	後期	2	1~4	水5	河西 邦人	□	□	□	□	□	□	□	
	地域貢献活動C	-	1	1~4	-	教務部長	□	□	□	□	□	□	□	
	地域貢献D	-	2	1~4	-	2023年度休講	□	□	□	□	□	□	□	・隔年開講による休講
地域貢献活動D	-	1	1~4	-	2023年度休講	□	□	□	□	□	□	□	・隔年開講による休講	
グローバル科目群	日本語を教えるA	前期	2	1~4	火3	佐藤 章	□	□	□	□	□	□	◇	
	日本語を教えるB	後期	2	1~4	火3	佐藤 章	□	□	□	□	□	□	◇	
	異文化グループワークA(1)	前期	2	1~4	木2	吉川 哲生	○	◇	□	◇	□	□	◇	
	異文化グループワークA(2)	前期	2	1~4	月4	白石 英才・ヒンクルマン D.W	○	◇	□	◇	□	□	◇	
	異文化グループワークB(1)	-	2	1~4	-	2023年度休講	○	◇	□	◇	□	□	◇	
	異文化グループワークB(2)	-	2	1~4	-	2023年度休講	○	◇	□	◇	□	□	◇	
	異文化グループワークB(3)	-	2	1~4	-	2023年度休講	○	◇	□	◇	□	□	◇	
	異文化グループワークB(4)	-	2	1~4	-	2023年度休講	○	◇	□	◇	□	□	◇	
	プロジェクトマネジメント入門(1)	前期前半	2	1~4	木45	櫻澤 智志・勝部 逸平	○	◇	□					
	プロジェクトマネジメント入門(2)	前期前半	2	1~4	月45	櫻澤 智志・勝部 逸平				○	○	○	◇	
	プロジェクトマネジメント入門(3)	後期後半	2	1~4	木45	櫻澤 智志・勝部 逸平	○	◇	□					
	TOEICトレーニングA	前期	2	1~4	火2	スケルトン W	□	□	□	◇	□	□	◇	
	TOEICトレーニングB	後期	2	1~4	火2	スケルトン W	□	□	□	◇	□	□	◇	
	TOEICトレーニングC	前期	2	1~4	水3	リン I.C.	□	□	□	◇	□	□	◇	
	TOEICトレーニングD	後期	2	1~4	水3	リン I.C.	□	□	□	◇	□	□	◇	
	海外スタディⅠ(1)	後期	2	1~4	木5	吉川 哲生・黄 昕	○	◇	□	○	○	○	◇	
	海外スタディⅠ(2)	通年	2	1~4	月5	白石 英才	○	◇	□	○	○	○	◇	
	海外スタディⅡ(1)	後期	2	1~4	木6	吉川 哲生・黄 昕	○	◇	□	○	○	○	◇	
	海外スタディⅡ(2)	通年	2	1~4	月6	白石 英才	○	◇	□	○	○	○	◇	
	海外スタディⅡ(3)	通年	2	1~4	-	2023年度休講	○	◇	□	○	○	○	◇	
	グローバルインターシップⅠ(1)	通年	2	1~4	月5	白石 英才・早川 淑人	○	◇	□	○	○	○	◇	
	グローバルインターシップⅠ(2)	前期	2	1~4	木5	ヒンクルマン D.W.	○	◇	□	○	○	○	◇	
	グローバルインターシップⅡ(1)	通年	2	1~4	月6	白石 英才・早川 淑人	○	◇	□	○	○	○	◇	
	グローバルインターシップⅡ(2)	後期	2	1~4	木5	ヒンクルマン D.W.	○	◇	□	○	○	○	◇	
	グローバルインターシップⅡ(3)	通年	2	1~4	-	2023年度休講	○	◇	□	○	○	○	◇	
	グローバルボランティアⅠ	後期	2	1~4	月4	ヨネ ユ.J.C.・ヒンクルマン D.W.	□	□	□	○	○	○	◇	
	グローバルボランティアⅡ(1)	後期	2	1~4	月5	ヨネ ユ.J.C.・ヒンクルマン D.W.	□	□	□	○	○	○	◇	
グローバルボランティアⅡ(2)	通年	2	1~4	-	2023年度休講	□	□	□	○	○	○	◇		

(趣旨)

第1条 この規程は、札幌学院大学組織規程第21条第4項に基づき、全学教務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(構成員)

第2条 委員会は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 教務部長
- (2) 各学部の教務委員長

(任期)

第3条 前条第2号の委員の任期は、原則2年とし、再任を妨げない。

(審議事項)

第4条 委員会は、全学にかかわる次の事項を審議する。

- (1) 教育方針、目的及び教育改革に関する事項
- (2) 学士課程教育の質の保障に関する事項
- (3) 授業方法の改善に関する事項
- (4) 教務上の制度・運営に関する事項
- (5) 教務上の行事に関する事項
- (6) 教養教育のカリキュラム編成及び実施に関する事項
- (7) 教養教育の人事に関する事項
- (8) その他全学的に調整が必要な教務全般に関する事項

(教育部門)

第4条の2 前条第6号及び第7号を推進するため、委員会の下に、全学教務委員会・外国語教育部門を置く。

- 2 前項に定める教育部門に部門会議を設ける。
- 3 教育部門に責任者を置き、責任者は部門会議を主宰する。
- 4 教務部長は必要に応じて、教育部門の責任者及び関係学部長等に対し、委員会への意見を求めることができる。

(推進組織)

第4条の3 第4条第6号及び第7号は、教育科目分野ごとに、次の組織が推進することとする。

推進組織	教育科目分野
全学教務委員会	言語表現教育科目、情報教育科目、社会科学（社会情報学）教育科目、健康科学・自然科学・スポーツ教育科目、キャリア・総合科目、グローバル科目
全学教務委員会・外国語教育部門	外国語教育科目
経済経営学部教務委員会	社会科学（経済学）教育科目 社会科学（経営学）教育科目
人文学部教務委員会	人文科学教育科目
法学部教務委員会	社会科学（法学）教育科目
心理学部教務委員会	人文科学（心理学）教育科目

(招集)

第5条 委員会は、教務部長が招集し、議長を務める。

(開催)

第6条 委員会は、原則として毎月1回開催する。ただし、教務部長が必要と認めたとき又は委員の過半数から開催請求があったときは、臨時に開催する。

(成立)

第7条 委員会は、構成員の過半数の出席をもって成立する。

(議決)

第8条 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(構成員以外の者の出席)

第9条 議長が必要と認めたときは、構成員以外の者を出席させ、説明又は意見を求めることができる。

(議事録)

第10条 委員会の議事については、議事録を作成し、議長が記名、押印した後保管する。

(所管部署)

第11条 委員会の運営に必要な事務は、教育支援課が所管する。

(規程の改廃)

第12条 この規程の改廃は、大学協議会の議を経て、理事会が行う。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 (平成24年4月1日)

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則 (平成26年4月1日)

1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。

2 札幌学院大学全学共通教育運営委員会規程は廃止する。

附 則 (平成27年11月4日)

この規程は、平成27年11月4日から施行し、平成27年7月13日から適用する。

附 則 (平成29年4月1日)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則 (令和3年4月1日)

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

目次

- 第1章 総則（第1条・第2条）
- 第2章 大学評価の体制（第3条—第6条）
- 第3章 自己評価（第7条—第12条）
- 第4章 外部評価（第13条）
- 第5章 認証評価（第14条）
- 第6章 内部質保証（第15条）
- 第7章 評価結果の検証及びそれに基づく対応（第16条・第17条）
- 第8章 改善義務（第18条）
- 第9章 雑則（第19条・第20条）

附則

第1章 総則

（目的）

第1条 この規程は、札幌学院大学（以下、「本学」という）学則第1条の2及び札幌学院大学大学院学則第1条の2の規定に基づき、大学評価に関し必要な事項を定めることを目的とする。

（定義）

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の定義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 「大学評価」とは、自己評価、外部評価、認証評価を総称していう。
- (2) 「自己評価」とは、本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備（以下「教育研究等」という。）の状況について自ら行う点検・評価をいう。
- (3) 「外部評価」とは、本学の依頼に基づき、本学教職員以外の評価実施者が、本学の教育研究等について行う評価をいう。
- (4) 「認証評価」とは、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関が行う本学の評価をいう。
- (5) 「内部質保証」とは、大学評価を適切に機能させることによって、教育の質の維持・向上を自ら図る一連のプロセスをいう。

第2章 大学評価の体制

（大学評価委員会）

第3条 本学は、大学評価及び内部質保証の推進に責任を負う組織として、札幌学院大学大学評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会の委員は、次の各号に掲げる者とし、理事長が任命する。

- (1) 学長
- (2) 常務理事
- (3) 副学長
- (4) 事務局長
- (5) 学長が指名する者（若干名）

3 前項第5号の委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長及び副委員長）

第4条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 副委員長は、委員長が指名する者とする。

（委員会の運営）

第5条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の3分の2の出席をもって成立する。
- 3 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め意見を聞くことができる。
- 4 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決する。

(委員会の審議事項)

第6条 委員会は、大学評価に係わる次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 内部質保証の方針及び推進方策に関する事。
- (2) 自己評価及び外部評価の基本方針及び実施方策に関する事。
- (3) 認証評価機関の評価に関する事。
- (4) 大学評価の結果の公表に関する事。
- (5) 大学評価の結果の検証及びそれに基づく対応に関する事。
- (6) その他重要事項に関する事。

第3章 自己評価

(自己評価の事項)

第7条 自己評価は、次の各号に掲げる事項による。

- (1) 大学の理念及び目的に関する事。
- (2) 教育研究組織に関する事。
- (3) 教員・教員組織に関する事。
- (4) 教育内容・方法・成果に関する事。
- (5) 学生の受け入れに関する事。
- (6) 学生支援に関する事。
- (7) 教育研究等環境に関する事。
- (8) 社会連携・社会貢献に関する事。
- (9) 管理運営・財務に関する事。
- (10) 内部質保証に関する事。
- (11) その他必要な事項に関する事。

(自己評価の実施)

第8条 自己評価は、毎年度実施する。

(自己評価の実施体制)

第9条 自己評価の実施に当たり、学部・研究科・各種委員会等に自己評価実施部会（以下「実施部会」という。）を置く。

2 実施部会の自己評価については、全学的な観点から大学評価委員会がこれを統括する。

(自己評価実施部会の構成)

第10条 学部の実施部会は、学部運営会議の構成員及び職員で構成する。

- 2 研究科の実施部会は、研究科長及び研究科運営委員並びに職員で構成する。
- 3 各種委員会等の実施部会は、当該組織の長並びに所管する事務局の職員で構成する。
- 4 実施部会に部会長を置くこととし、当該組織の長がその任に当たる。
- 5 実施部会の構成は、大学協議会に報告する。

第11条 削除

(自己評価の報告書の作成及び公表)

第12条 大学評価委員会は、実施部会からの結果を取り纏め、各種媒体によって随時内容を公表する。

第4章 外部評価

(外部評価の実施)

第13条 外部評価は、自己評価の客観性を担保するために、必要に応じて実施する。

第5章 認証評価

(認証評価の実施)

第14条 学校教育法の定める認証評価の受審に際しては、大学評価委員会が大学全体を統括し、責任を持ってその実施にあたる。

第6章 内部質保証

(内部質保証の方針、体制及び手続)

第15条 本学の内部質保証の方針、体制及び手続を別に定め、これを公表する。

第7章 評価結果の検証及びそれに基づく対応

(評価結果の検証)

第16条 大学評価委員会は、自己評価、外部評価及び認証評価の結果について検証する。

(評価結果の検証に基づく対応)

第17条 大学評価委員会は、検証の結果に基づき、関係部局に対して必要な措置を勧告することができる。

第8章 改善義務

(評価結果に基づく改善義務)

第18条 学長、研究科長、学部長及び部局等の長は、自己評価、外部評価及び認証評価の結果及び前条に定める勧告に基づき、必要な改善措置を講じなければならない。

第9章 雑則

(大学評価委員会、自己評価実施部会の事務)

第19条 大学評価委員会の事務は、企画政策課が担当する。

2 学部及び研究科の実施部会の事務は、教育支援課が担当する。各種委員会等の実施部会は所属する事務局が担当する。

(改廃)

第20条 この規程の改廃は、大学協議会の議を経て、理事会が決定する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則 (平成18年6月19日)

この規程は、平成18年6月19日から施行する。

附 則 (平成20年5月29日)

この規程は、平成20年5月29日から施行する。

附 則 (平成21年4月1日)

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 (平成24年4月1日)

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則 (平成27年5月1日)

この規程は、平成27年5月1日から施行する。

附 則 (平成27年11月4日)

この規程は、平成27年11月4日から施行し、平成27年7月13日から適用する。

附 則 (平成30年4月1日)

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則 (令和5年6月1日)

この規程は、令和5年6月1日から施行する。

大学等名	札幌学院大学
教育プログラム名	データサイエンス・AI教育プログラム

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和6年度

取組概要



データサイエンス・AI教育プログラム概要

設置目的	データサイエンスやAIへの関心を高め、Society5.0の社会を適切に理解し活用する基礎的な能力を育成する
対象科目	データサイエンス概論(2単位), コンピュータサイエンス概論(2単位)
対象者	全学部・全学科の学生
内容	データサイエンス・AI・コンピュータの技術や知識、データに基づく思考と問題解決に関する基礎を習得する
得られる力	(1)データサイエンス・AI・コンピュータの社会での活用や、新たな価値創造にどのように結びつくか理解し説明できる (2)身近な課題を発見し、データサイエンスを通して解決できる (3)Society5.0で活躍するための素養
修了要件	対象科目(上記2科目・4単位)の単位を修得すること
特徴	(1)全学部学科生が履修可能 (2)オンデマンド授業形態で開講 (3)データサイエンス・AI教育プログラムの修了要件を満たした修了者には、プログラム修了証を授与
関連科目	コンピュータ基礎A・B、コンピュータ応用B・C、統計学
実施体制	全学教務委員会

Society5.0で
活躍するための素養

||

コンピュータの今日的な利用と
AI技術の理解
(コンピュータサイエンス概論)

+

データを理解し読み解く力
+データ分析の技術
(データサイエンス概論)

関連科目の履修でより深い知識とコンピュータ活用能力がつく

- 関連科目(教養科目)
- コンピュータ利用の基礎：
コンピュータ基礎A・B
 - データ解析の基礎：
コンピュータ基礎B
コンピュータ応用B・C
 - 数理的な基礎：統計学

大学等名	札幌学院大学
教育プログラム名	データサイエンス・AI教育プログラム

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和6年度

補足説明資料1

プログラムを推進するための体制と点検・評価との関係

【全学教務委員会】

全学にかかわる教育方針、学士課程教育の質の保障、授業方法の改善、教養教育のカリキュラム編成と実施を担う組織

構成員

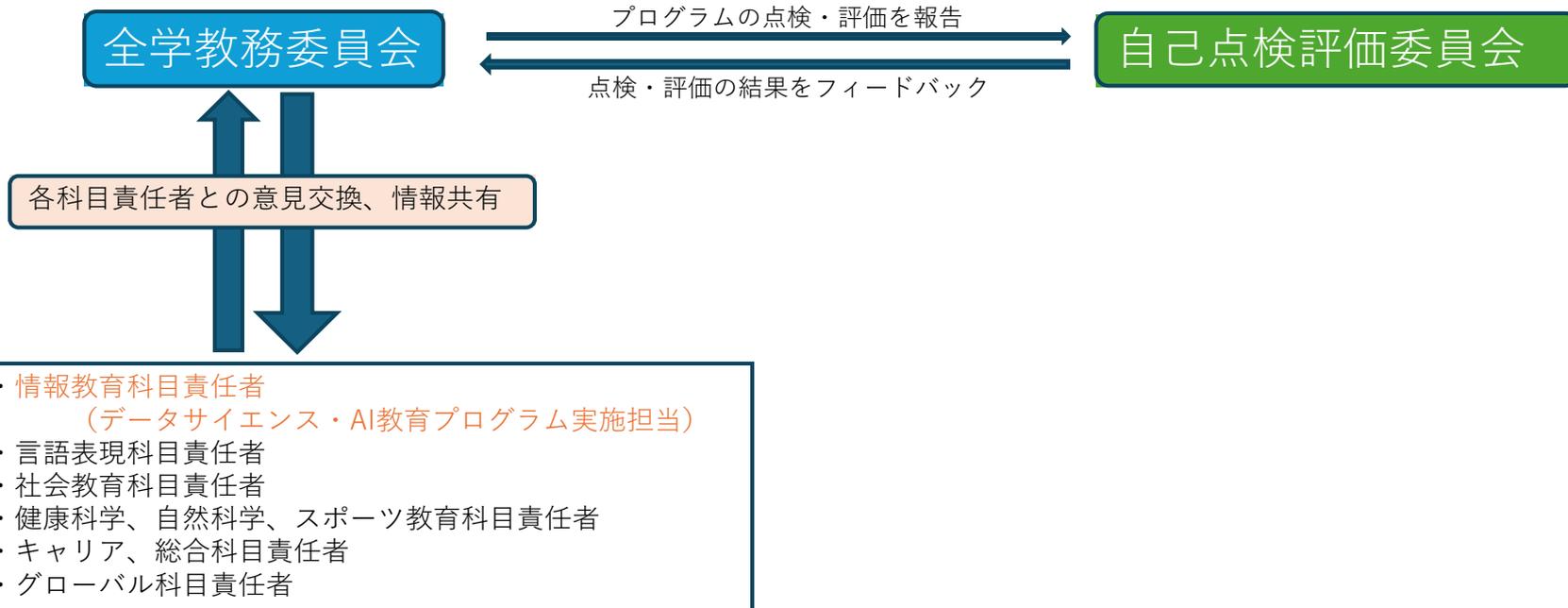
- ・教務部長（学長指名）
- ・学部教務委員長（4学部各1名、計4名）

【自己点検評価委員会】

大学評価及び内部質保証の推進に責任を負う組織

構成員

- ・学長
- ・常務理事（2名）
- ・副学長（2名）
- ・事務局長
- ・学長が指名する者若干名



大学等名	札幌学院大学
教育プログラム名	データサイエンス・AI教育プログラム

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和6年度

補足説明資料 2

札幌学院大学の情報教育環境

PC台数：江別キャンパス317台
 新札幌キャンパス 84台
 無線LANアクセスポイント設置数：江別キャンパス156台
 新札幌キャンパス204台

無線LANアクセスポイント



eduroam加入サイン



eduroamを利用していつでもどこでも学習が可能



本学は、2キャンパスで合計400台のPCを設置。無線LANのアクセスポイントも両キャンパスで360台を設置し、施設内すべてを網羅。また、eduroamに加盟しているため、同じく加盟している大学（国内外を問わず）や各種機関等内であれば、いつでもどこでも学習できる環境を整えている。